

ストラスブール研修報告

061401197 橋本志津弥

ストラスブール研修ではいくつもの貴重な体験をすることができましたが、その中で最も得難いと思ったものは異なる習俗に対する寛容さとその理解の必要性でした。ストラスブールはドイツとフランスの国境近くにあり、その帰属について長く争われていました。このことを理由として今日、欧州全体の統合を目的とした欧州評議会が設置されています。博物館や欧州議会の説明においても、現在進められている欧州の和解や統合の重要性、そのために必要な互いの文化の尊重、共通した価値観の確保について強調されていました。独仏間は三十年戦争、普仏戦争、第一次・第二次世界大戦など多くの戦争があり、その反省の上で緊張緩和を推し進めていることは、現在周辺国との関係悪化が問題視されている我が国にとってとても重要なことだと思い、強い興味を持って見学に取り組むことができました。

そして、ストラスブール大学で行われたフランス語の講義もまた大変興味深いものでした。まず、日本語を一切使わない講義は英語の一部講義でしか行われておらず、日本語以外の言語により講義を受けることそのものが興味深い体験でした。そして、講義の方法そのものも日本におけるフランス語学習とは異なる形態でした。ある講義では半過去、複合過去についての文法とリスニングを行いました。この二つを同時に行うことは日本での講義においても同様の構成で行われるものもありますが、その際にニュース資料や童話など教科書外の内容から内容に取り組むことを私は受けていなかったため非常に興味深いものでした。もう一つの講義においてはコミュニケーションのための手段としてフランス語の学習を行い、基本的な語彙についての学習を中心にグループワークを主体とした講義でした。このときフランスで一般的な遊びを利用したものがあり、現地文化に触れる良い機会にもなりました。

この時、向こうでは一般的に遊ばれていると思われる「ドミノ」あるいは「タブー」が日本の学生では全く知られていないことで、説明なしで行われようとしたグループワークをいったん中断してルールの説明を行うことがありました。このことは現地とのアナログゲームの普及具合の差を示すものであり日常的な分野における日仏の文化の違いとして印象に残るものでした。日本でもアナログゲームを趣味とする人やそれらを取り扱う店舗は存在しますし、フランスでもこれらを趣味としない人も多いのですが、現地ではいくつかのアナログゲーム専門の商店が市街の中心部に存在することなどから日本に比べると盛んにそういったものが楽しまれていると感じました。

研修を通じ、私は異文化に対する理解を深めるためには歴史・文化的な知識の理解とその一般生活・習俗に対する理解という二つの側面が重要であると感じ、日本においてもインターネットなどを通じ理解に努めることが重要であると感じました。